

56. LBC(Liquid-Based Cytology) 法を用いた細胞診によるリンパ腫の診断

研究の概要

リンパ節生検の残余組織からLBC法を用いた細胞診標本を作製し、画像検索、免疫細胞化学的検索を加えたリンパ腫診断の可能性を検討することです。

研究の目的と方法

リンパ腫の診断は通常リンパ節あるいはリンパ節外病変から生検を行い、組織学的診断で確定します。ところが生検が困難な場合や胸水などの体腔液からの標本の場合組織診断ができず、診断・治療が遅れてしまうこととなります。ところがこのような場合であっても細胞診標本は作製可能で、しかもLBC法を用いることで検索法の多様性が広がり、確定診断も期待できるようになってきました。今回リンパ節生検組織の残余組織を用いてLBC法による細胞診標本を作製して、画像解析を行うことで客観的情報によるリンパ腫の診断の可能性を検討したいと思います。本研究により組織でも診断困難な低悪性度リンパ腫を少量でかつ低侵襲の穿刺吸引細胞診検体から確定診断する道が開けることとなります。

本研究の参加について

ご協力いただきたいのはリンパ節の検査に使用された後の残余検体を上記検査のために使用する同意をいただくことです。通常の診療でおこなわれる検査で得られた検体の残りを利用しますので、更なる負担、危険性はありません。研究への参加は任意ですし、研究への参加に同意しないことをもって不利益な対応はありません。いつでも不利益を受けることなく撤回することができます。

調査する内容

リンパ腫疑いのリンパ節組織から細胞診断標本を作製し、形態学的検索のほか、免疫細胞化学的・分子生物学的検索を行います。今回の遺伝子の検査は、腫瘍細胞に起こった異常を検査するもので、子孫に受け継がれる遺伝子の変化を調べるものではありません。

調査期間

研究期間：倫理審査承認後～2020年3月31日（調査対象期間： 2019年4月～2020年3月）

研究成果の発表

おこなった研究において、研究結果を患者さんご本人にお教えすることは原則的にありません。研究の成果は提供者の氏名等が明らかにならないようにして、学会発表や学術雑誌で公に発表されることがあります。ご不明の点は主治医にお尋ねください。

研究代表者

病理診断科 村山寿彦

当院における研究責任者

病理診断科 村山寿彦

問い合わせ先

病理診断科 村山寿彦

TEL: 096-353-6501